

鳥取大学動物実験報告書(終了報告書記入例)

申請内容への連絡先	氏名	連絡先電話番号	Email	部局名
	鳥取 太郎	准教授	△△△△@tottori-u.ac.jp	□□学部 □□学科 □□講座 □□分野
(補足説明: 申請内容について事務局から連絡させて頂く場合があります。実験の責任者と異なっていてもかまいません。)				

(自動入力) 報告の内容	報告の種類 ○ 年次報告 ● 終了報告			
--------------	---------------------------------	--	--	--

(自動入力) 動物実験責任者	氏名	職名	内線	e-mail	部局名
	鳥取 太郎	准教授	◇◇◇◇	△△△△@tottori-u.ac.jp	□□学部 □□学科 □□講座 □□分野

(自動入力) 研究課題	遺伝子改変動物作成等の発生工学技術支援、および技術支援の基盤となる発生工学的技術の開発				
-------------	---	--	--	--	--

(自動入力) 承認番号	〇〇-Y/T-〇〇				
-------------	-----------	--	--	--	--

(自動入力) 動物実験実施予定期間	2019/04/01 ~ 2022/03/31				
-------------------	-------------------------	--	--	--	--

(自動入力) 飼養保管施設 及び 実験室	飼養保管施設		実験室	
	名称	先進医療研究センター・動物実験施設	名称	先進医療研究センター・動物実験施設
	施設承認番号	18Y-F-1	施設承認番号	18Y-F-1
	飼育室番号	417号室	実験室番号	412号室

(自動入力) 使用動物	動物種	系統	性別	匹数	微生物学的品質	入手先(導入機関名)
	マウス	ICR	オス	600	SPF	日本SLC
	マウス	ICR	メス	700	SPF	日本SLC
	マウス	C57BL/6	オス	400	SPF	日本SLC
	マウス	C57BL/6	メス	400	SPF	日本SLC

(自動入力) 想定される苦痛の категория	☒ B. 脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験 ☐ C. 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験 ☐ D. 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み(長時間持続するもの)を伴うと思われる実験 このカテゴリーを選択した場合には、代替法ではなく実験動物を用いなければ科学的目標を達成できない理由を研究目的とその意義欄に記載して下さい。 ☐ E. 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近いまたはそれ以上の痛みを与えられる実験
------------------------------	--

動物実験実施状況の検証

	動物種	系統	性別	計画匹数	今年度使用匹数	延べ使用匹数
動物の使用実数	マウス	ICR	オス	600	50	518
	マウス	ICR	メス	700	397	680
	マウス	C57BL/6	オス	400	7	376
	マウス	C57BL/6	メス	400	58	388
	マウス	BDF1	オス	0	15	15
	マウス	BDF1	メス	0	60	60
	マウス	C3H/HeJ	メス	0	20	20

3R	動物の選択 使用した動物種は適正であり、かつ適正に用いたか。 ☒ 適 ☐ 不適 計画に予定していた系統以外のマウスを用いたが、本実験目的である研究用動物資源の系統保存、および生体作出を果たす目的に即した追加であり、動物の選択は適していると判断した。
	動物数の削減 使用動物数(実験使用数及び繁殖数)の削減に努めたか。 ☒ 適 ☐ 不適 計画に則して、動物数を削減しながら実験を行った。また系統毎の配分は計画と異なるが、全体の使用数は計画総数を超えていない。
	動物の苦痛軽減 安楽死 動物の苦痛軽減、排除及び安楽死を適正に行ったか。 ☒ 適 ☐ 不適 この欄は、不適にマークされた場合のみ記載が必要です。

施設等の利用	動物処置室及び動物実験・飼育室を適正に利用したか。 ☒ 適 ☐ 不適 この欄は、不適にマークされた場合のみ記載が必要です。
教育訓練	動物実験責任者、実施者及び飼養者は動物訓練を受けたか。 ☒ 適 ☐ 不適 この欄は、不適にマークされた場合のみ記載が必要です。
事故の発生	事故報告書の提出に該当する事故の発生があったか。 ☒ なし ☐ あり この欄は、「あり」にマークされた場合のみ記載が必要です。

終了報告の場合は、以下の欄も記入して下さい。(年次報告では、以下の記載は不要です)

実験終了の年月日	2021/12/01
実験終了時の状況	期間 ○ 計画した実施期間満了 ● 計画した実施期間の途中 「計画した実施期間の途中」の理由 本実験は、遺伝子改変動物作製等の発生工学的技術支援、および技術支援の基盤となる発生工学的技術の開発を目的としており、学内の研究者の支援を目的として行っている。2019年4月より、実験を開始したが、遺伝子改変マウス作製や凍結胚作製などの支援実験が増加し、使用する実験動物数が当初予定数を超える見込みになった。追加・変更届で、軽微な増加は認められるが、本実験計画の現状から今後も本実験と同程度のマウスを使用することが予想される。そのため、本実験計画を中止して、かつ現状に沿った内容で新たな動物実験を計画することにした。
計画終了時の動物の有無	動物の有無 ● 有 ○ 無 有の理由 使用動物数が当初予定数を超える見込みになったため、本実験は終了する。遺伝子改変マウス作製のための精管結紮マウスなどは新しい動物実験計画でも使用することができる。終了時に残ったマウスは、新しい実験計画(○○-Y/T-○○)に引き継ぎ、利用する。
実験成果の概要	実験成果 遺伝子改変マウス作製の技術が向上した。遺伝子改変マウス作製支援に関しては、令和2年〇月に説明会を開き、学内の支援業務として行っていることを発表した。 学会発表 該当なし。 ただし、成果の一部は令和2年度〇学部大学院修士論文発表会や〇学部卒業論文発表会にて発表された。 〔発表者名、タイトル、発表会名(令和2年度〇学部大学院修士論文発表会 等)、発表年月日、発表開催地(米子、鳥取)を記載する〕 論文発表 〔発表者名、タイトル、雑誌名、年、巻、ページを記載する〕 著書 〔著者名、タイトル、編者、書名、発行地、発行所、発行年、ページを記載する〕 その他 令和2年〇月〇日に米子で動物実験に関する説明会を開催し、本実験計画で得られた技術を基にした支援業務に関する説明を行った。
その他 (実験実施において気付いた事項)	
添付資料	添付資料 複数の添付が可能です。